

水生生物の分布，生態調査 淡水魚類の分布と希少魚類の繁殖基礎試験

宮本 敦史・水野 知巳・西村 昭史

目的

河川に生息する魚類を対象に採捕調査および潜水目視調査を行い，県内の河川魚類相を把握する。また，県内で個体数あるいは分布域が減少していると考えられる淡水魚を対象に，人工繁殖の基礎技術となるデータの収集を行う。

方法

1. 河川魚類調査

三重県北中勢地域を流れる6水系14河川において投網，タモ網，もんどりなどを用いた採捕調査と潜水目視調査を行い，各河川における魚類の分布状況を調べた。採捕個体はジフェノキシエタノール溶液で麻酔後，種同定を行った。潜水目視調査では種同定が困難な場合は属レベルの査定にとどめた。

2. 希少魚繁殖基礎試験

アカザ，カワヒガイ，アブラボテ，シロヒレタビラ，カワバタモロコの希少魚5魚種について100cm アクリル水槽（水量約0.2t）での長期飼育試験を試みた。飼育水は脱塩素水道水を用い，循環濾過式とした。餌は配合飼料に餌付け可能な魚種は餌付けを行い，その他は冷凍赤虫を与えた。5魚種のうち，カワヒガイ飼育水槽にはドブガイを投入し，自然採卵を試みた。

結果

1. 河川魚類調査

分布を確認した魚種を水系ごとに表1に示した。このうち環境庁版レッドリスト，水産庁版レッドデータブック，自然のレッドデータブック・三重のいずれかに記載されている希少魚種はアブラボテ，シロヒレタビラ，カワヒガイ，ズナガニゴイ，アジメドジョウ，ネコギギ，アカザ，アユカケの8魚種であった。

2. 希少魚繁殖基礎試験

長期飼育を試みた5種はほとんど斃死もなく推移した。アカザのみ冷凍赤虫を給餌したが，その他4魚種には配合飼料を与え，特に大きな問題は生じなかった。カワバタモロコは約4年間，アカザは約3年間飼育を継続中である。

表1 河川魚類相調査結果

	員 弁 川 水 系	朝 明 川 水 系	鈴 鹿 川 水 系	雲 出 川 水 系	櫛 田 川 水 系	宮 川 水 系
ウナギ			○	○		○
コイ						○
フナ属			○			○
ヤリタナゴ					○	
アブラボテ					○	○
カネヒラ					○	
シロヒレタビラ					○	
タイリクバラタナゴ					○	
オイカワ	○		○	○	○	○
カワムツB型	○				○	
カワムツA型					○	
オイカワ属	○		○	○	○	○
アブラハヤ	○					
タカハヤ	○					
ヒメハヤ属	○	○		○		○
ウグイ					○	○
カワヒガイ					○	
タモロコ				○	○	
カマツカ	○		○	○	○	○
ズナガニゴイ				○		○
ニゴイ					○	○
イトモロコ						○
コウライモロコ					○	
ドジョウ	○					
アジメドジョウ						○
シマドジョウ	○					
シマドジョウ属	○		○	○	○	○
ギギ			○			
ネコギギ	○			○	○	○
ナマズ						○
アカザ	○	○	○		○	○
アユ				○	○	○
アマゴ		○				
アユカケ					○	
カジカ属	○		○			○
ドンコ	○					
ボウズハゼ						○
ゴクラクハゼ					○	
シマヨシノボリ					○	
カワヨシノボリ	○					
ヨシノボリ属	○	○	○	○	○	○
ヌマチチブ						○
チチブ						○

カワヒガイは4月から5月にかけて水温を22℃に保持した水槽内で飼育し，二枚貝を投入したところ，直ちに産卵行動を開始した。しかし，産み付けられた卵の一部は二枚貝に吐き出され，その卵をカワヒガイ親魚が摂食する行動が確認されたため，以降は二枚貝への産卵を確認後直ちに二枚貝を取り上げることが必要であった。